

特集 こども白石城「こども評定所」

白石の未来は子どもにまかせろ！ 新しいまちづくりへの提言が次々に！

10月20日、前夜の雨も上がり透き通るような青空が広がりました。ここは、地域づくりのシンボルとしてそびえている白石城。そのシンボルの下で、子どもたちが地域づくりに主体的に、積極的に参加することによって活気ある地域づくりをより前進させようと、子どもたちが主役となって、「こども評定所」を開催しました。

評定所とはどんなところなのでしょう？
鎌倉時代、時の執権であった北条泰時は、有力御家人や官僚の有力者を評定衆に任じて、彼らの合議によって幕政の最高施策を決定させました。評定所は、この合議をした場所のことを言います。今回の「こども評定所」の名前は、これに由来します。
今回のこども評定所は、市内に6つある中学校の生徒の皆さんが、自分たちで考えたまちづくりの提案を発表し、風間市長に思いっきりぶつけるというもので、各中学校とも素晴らしいまちづくりへの提案が次々に発表されました。
今月の特集は、この評定所で練り広げられたまちづくりへの提案を皆さんにご紹介します。



東中学校

「近づく地震への対策 白石市を災害から守るために」

発表者 菊地亜紀さん、末谷 聖くん、庄子恵実さん（3年）

①「避難場所に防災用品を備蓄する」
いくつかの避難場所について調べたところ、どの避難場所も食料や水、毛布、薬などの防災用品を備蓄していません。備蓄が必要なのではないでしょうか？

②「情報を伝える手段にしろいし安心メールと防災無線を活用する」
市では災害関係情報や市からのお知らせを配信する「しろいし安心メール」があります。しかし、実際に登録しているのは、市民の約2・6%です。
そこで、市が整備を検討しているマルチチャンネルアクセスシステム（通称・MCA無線）が実現すれば、「しろいし安心メール」を受信できない人にも迅速かつ確実に情報を伝達することが可能になります。

③「地区ごとに自分たちで防災マップを作る」
現在の防災マップは広い範囲で、分りづらい部分があります。そこで、地区ごとに防災マップを作成し、充実させる必要があると思います。そして、市が作成するのではなく、地区に住む人たちが作る。

④「災害時の物資協定を多くの企業と結ぶ」
現在、災害時の食料などの生活物資は、みやぎ生協やセブンイレブン、ジャパネットと協定を結んでいます。本市では、東北自動車道のインターチェンジや東北新幹線の白石蔵王駅があり、多くの人が行



▲東中学校の発表の様子。右から菊地さん、庄子さん、末谷くん

は、大人だけでなく中学生や高校生が何ができるのか話し合ってくださいとお願ひしています。今日は、自分たちが何ができるかを考えて、自らマップを作っているというのは素晴らしいアイデアです。そのときに、避難の経路を自ら知ることができるといいです。また、避難場所は何があるかなど、地区ごとにあらためて知ってもらいたいと思います。

次に、援助物資ですが、今新たに協定を締結しようとしています。現在の協定では災害が発生した場合、約7時間後には援助物資が届くことになっています。また、このほかに「いきいきプラザ」に乾パンや毛布などの防災に関する物資を備蓄しています。ここで問題になるのが賞味期限です。一括して管理することで、安全な食料品を届けるシステムを作り上げていきますので安心して下さい。今後の課題としては、避難場所になる各小中学校には、和式のトイレを洋式のトイレとして使えるようにするものを配備しようとしています。



▲小原中学校の発表の様子。大型絵本を使って発表する右から半沢くん、小室くん、高橋くん

①道の駅
スパシユランドパークをもちと魅力あふれる憩いの場所にするため、10個のアイデアを紹介します。

②旬の市
道の駅の隣にある小原旬の市では、小原特産のトマト、大根、タマネギ、リンゴ、桃などの新鮮な野菜を、格安で販売します。また、目玉商品は、小原の桃をたっぷり使った「桃ソフトクリーム」です。

③花畑エリア
現在もシバザクラがきれいですが、さらにパージョンアップ。春夏秋冬、花々を楽しめるようになります。

④OBARA博物館
パークの一角にOBARA博物館を設置します。小原に生息する動植物の展示や、小原の観光スポットや材木岩などの天然記念物も



▲小原中学校の発表の様子。大型絵本を使って発表する右から半沢くん、小室くん、高橋くん

⑤「避難場所と避難経路の再点検」
本市の避難場所のうち、震度6強まで耐えられるのは市内の小中学校のみで、それ以外の避難場所は、耐震診断をしていないため強い地震の際にどこまで耐えられるか分かりません。また、避難場所までの避難経路で何が起るのか分かりません。避難しようとしても避難場所にたどり着くことができない状態も考えられます。それに対して、次の3つを考えました。

1. 避難場所すべてに対する耐震診断の実施
2. 危険と思われる避難場所の耐震性の強化
3. 避難経路の再点検と整備

⑥バンジージャンプ
白石川にかかるつり橋の上からバンジージャンプができます。

⑦パター練習場
大人から子どもまで楽しめる施設です。天然芝を使うので、自然を壊すことなくプレーできます。

⑥「ペットの避難対策を考える」
地震などの避難のときには、ペットの避難も考えなくてはなりません。現在、本市の登録は犬のみでも約3,700頭です。避難場所にも連れて行くにも動物が苦手な人もいるだろうし、餌の問題もありです。ペットの安全を確保する救援活動が本格化するまでの数日間、ペットと飼い主の両方の安全を確保するべきです。
それに対して、次の3つを考えました。

1. 市主催による飼い主へのペット避難に対応したしつけの指導
2. ペットが苦手な人へ配慮した避難場所の整備
3. ペット用の餌の用意

市長回答
大変よく勉強されましたね。まず、安全安心メールですが、

さまざまな所でピーアールしていますが、登録される方が伸びないのが現状です。皆さんのお父さんやお母さんが登録していないようであれば、皆さんから登録するよう呼び掛けてください。

次に、MCA無線の件ですが、分かった時点で知っている人に教えてあげる。つまり、日ごろから隣近所の皆さんと仲良くしていれば、無線よりも確実に伝わるとおもいますので、皆さんにお願いしたいと思います。

そして、ものすごく感心したことは、防災マップは自分たちで作るということです。これが大切なんです。そのために、自治会ごとに自主防災組織を立ち上げていただくようお願いをしています。そこで、一つの案ですが東中学校の防災マップを作るといことはどうでしょうか。地域の皆さんに